

センサーで安否確認



1人暮らしのお年寄りの安否を確認するシステムの親機(右)と各種センサー

1人暮らしのお年寄りの安否確認システム(イメージ)



商品名は「みまも郎」。ドアの開け閉めセンサー、緊急

機能絞り込み費用抑制

1人暮らしの高齢者用に

無線機器製造のアイテック(塩尻市)は、電池交換不要の無線発信器を使った各種センサーで1人暮らしのお年寄りの安否を確認できるシステムを商品化した。7月1日に受注を始める。ランニングコストは、インターネットの接続環境があれば無料、なくても月額通信費500円に抑えた。同社が一般消費者向けの製品を発売するのは初めて。自社開発商品の強化で収益基盤の安定化を目指す。

アイテック 無線発信器使ったシステム商品化

無線機器製造のアイテック(塩尻市)は、電池交換不要の無線発信器を使った各種センサーで1人暮らしのお年寄りの安否を確認できるシステムを商品化した。7月1日に受注を始める。ランニングコストは、インターネットの接続環境があれば無料、なくても月額通信費500円に抑えた。同社が一般消費者向けの製品を発売するのは初めて。自社開発商品の強化で収益基盤の安定化を目指す。

時の呼び出しボタン、センサーからの無線を受信してメールを発信する親機の3点を基本セットとする。人の動きを感知するセンサー、温度・湿度センサーも追加できる。全国の代理店を通じて販売し、基本セットの想定市場価格は10万円程度から。初年度は500セットの販売を目指す。センサーの検知結果は1日1回まとめて電子メールで通知。一定時間反応がない場合もメールで注意を喚起する。徘徊予防のため、ドアの開閉をメールで通知することもできる。他社製のシステムは、サーバーとつないで検知結果をクラウド化するなど付加価値の高いサービスを提供しているものが多いが、機能を絞り込むことで低価格化を実現した。

問い合わせは同社のフリーダイヤル(☎0120・82・6888)へ。

信濃毎日新聞

アイテック
センサー製造のアイテック(塩尻市)は、独り暮らしの高齢者の安否を無線センサーやメールを使って確認できるシステムを開発し、7月から販売を始める。クラウドを活用し履歴データ閲覧などができる同業他社のシステムに比べ、簡単な機能に絞りこみ月額費用を半分程度にした。基本システムは実勢価格で10万円前後(税抜き)を見込み、初年度は500台の販売を目指す。

高齢者の安否センサーで確認



メールで通知、費用安く

開閉センサーはトイレなど日常生活で頻繁に使うドアに取り付ける。毎日1回開閉回数を知らせるほか、24時間検知しないと「生活反応がありません」という連絡を送る。コールボタンが押されたこともメールで知らせる。オプションの温度・湿度センサーをつけると熱中症の注意情報も連絡する。センサーやコールボタンに室内の光でも蓄電できる太陽電池を使用し20年以上電池交換が不要という。

日本経済新聞
長野経済欄

発行所 市民タイムス
TEL (0263) 受付47-7777 編集
FAX (0263) 受付48-2422 印刷

高齢者安否 メールで伝達

無線関連の「独り暮らし「みまも郎」
アイテック



無線センサーを活用した独居高齢者安否確認システムの製品

無線センサーを活用した独居高齢者安否確認システムの製品。開閉センサーはトイレなど日常生活で頻繁に使うドアに取り付ける。毎日1回開閉回数を知らせるほか、24時間検知しないと「生活反応がありません」という連絡を送る。コールボタンが押されたこともメールで知らせる。オプションの温度・湿度センサーをつけると熱中症の注意情報も連絡する。センサーやコールボタンに室内の光でも蓄電できる太陽電池を使用し20年以上電池交換が不要という。

無線関連製品を製造するアイテック(村上市勝彦社長、塩尻市広野村)は1日、独り暮らし高齢者の生活反応をセンサーで感知して家族らに電子メールで伝える「みまも郎安否確認システム」を開発した、と発表した。インターネットの接続環境が整ってあれば月額無料で利用できる仕組みで、7月1日の受注開始を予定する。

部屋の温度・湿度を無線センサーが感知し、「親機」を通じて電子メールが送信されるシステムで、緊急メールを送る「コールボタン」も用意されている。室内が熱中症の警戒状態になった場合や、センサーに一定時間反応がない際もメールが送信される。

センサーには、蛍光灯の光や窓明かりで発電・動作する自社開発の「アーミン」が使われており、20年以上メンテナンスしなくていいという。夜間に出歩く認知症高齢者らに対応し、一定の時間帯に扉を開閉したらメール送信する機能も追加する予定だ。

問い合わせはアイテック(☎0120・82・6888)、電子メールERMINE@itec-corp.co.jp)へ。(宮沢 一)

市民タイムス